

建物浸水被害復旧のポイント

(公社)熊本県建築士会

① 「片付けの前に被害状況の写真を撮影！」

- ・ 保険金の請求や罹災証明を取得するときの状況証拠として役立ちます。
- ・ 写真は、室内・外部を各方向撮影し、どこまで浸水したのかメジャーなどを当てた写真があるとベストです。高価な家財道具なども廃棄する前に撮影しておくことをお勧めします。

② 「被害状況を各所に連絡！」

- ・ 火災保険や共済に加入している場合は被害状況を連絡してください。
- ・ 賃貸住宅の場合は家主に被害状況を連絡してください。
- ・ 市町村に罹災証明の申請を行ってください。(詳細は、市町村にお問い合わせください)

③ 「ライフラインのチェック！」

- ・ コンセントが水に浸かった場合は漏電の危険があるため、プラグを抜いて、完全に乾くまでブレーカーを上げないでください。
- ・ LP ガスの場合は、ボンベが元の位置から動いてないか、ホースに抜けがないか確認してください。
- ・ 下水については、敷地内のマンホールなどが動いていないか、詰まらず流れるか確認してください。

④ 「片付けは家財から！」

- ・ 乾けば使えるもの、水を吸って使えないものに分類し浸水した部屋の外に搬出します。
- ・ 壊れやすくなっている物もあるため、ゆっくり無理をせず行ってください。(重いものは複数人で)
- ・ ごみ捨てや分別については、自治体の情報を確認して廃棄してください。

⑤ 「建物の基礎に水が溜まってないか確認！」

- ・ 基礎の通気口や床下点検口を覗いて確認してください。
- ・ 水が溜まっていたら、ポンプやバケツで水を排出し、木の葉や建材などの異物を取り除いてください。
- ・ 床下が土敷きの場合は、できれば流入してきた泥土を取り除いてください。
※消毒に消石灰の使用は止めてください！(カビに効果がなく、健康被害の恐れがあります。)

⑥ 「汚れを拭き取り乾燥させる！」

- ・ 家の大敵は「湿気」です。とにかく乾燥することが大事です。
通風をよくして(可能であれば扇風機などを使って)建物を乾燥させてください。
- ・ カビを防ぐため、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤でも可)、消毒用アルコール、逆性せっけんなどを使い拭き取ることをお勧めします。

⑦ 「床や壁を剥がす際は最小限に！」

- ・ 壁や壁の中の断熱材が濡れている場合もありますが、建築士や施工業者の助言を得てから行うか、専門業者に委託して実施することをお勧めします。
(やり方によっては、構造体を痛めたり、そのあとの復旧を難しくすることがあるためです)

⑧ 「処分は焦らず、慌てず！」

- ・ 大切なものを処分しすぎないように、落ち着いて分別しましょう。
- ・ エアコン室外機は水没しても復旧することがあります。水洗い乾燥後、専門家に相談しましょう。
- ・ 写真も洗浄して残すことができます。水洗いし、重ならないよう日陰干ししましょう。

清掃作業は、ほこりを吸わないようマスクを着用し、清掃後はしっかり手洗いをしましょう。こまめな水分補給もお忘れなく